

感染症情報

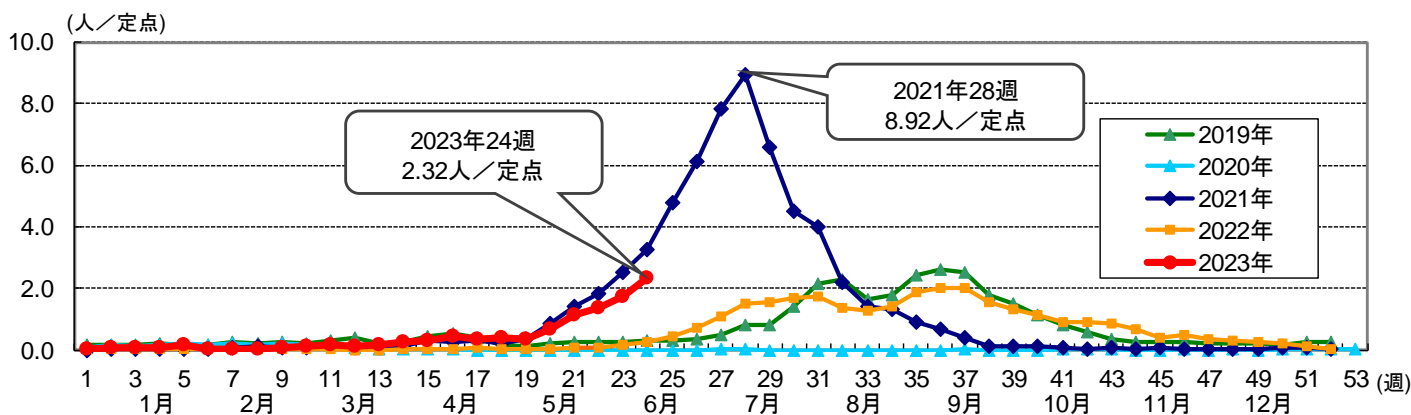
RSウイルス感染症が増えています！

どんな病気？

「RSウイルス」による呼吸器感染症です。1歳までに50～70%以上が感染し、2歳までにはほぼすべての小児が少なくとも1度は感染すると言われています。症状は軽い風邪様症状から重い肺炎まで様々ですが、乳児期早期（生後数週間～数カ月間）にRSウイルスに初感染した場合、細気管支炎、肺炎を引き起こすことがあり、特に低出生体重児や心臓や肺に基礎疾患がある場合は重症化のリスクが高いです。また、頻度は少ないですが重篤な合併症として脳症があり、現在、流行が続く中でRSウイルスによる急性脳症の報告が出てきています。RSウイルスは生涯にわたって感染を繰り返し、幼児期における再感染での発症はよくみられ、その多くは軽い症状です。治療は解熱薬の投与や水分補給などの対症療法が主となります。

どのくらい多いの？

例年冬期に流行が見られていましたが、近年は7月頃から報告数が増加傾向となっています。また、2021年は定点報告数が過去最高となりました。2023年は例年よりも早く5月から増加し、24週(6月12日から18日)の定点当たり報告数が2.32となっており今後の流行状況に注意が必要です。



どうやってうつるの？

RSウイルス感染症は、ウイルスに感染している人の咳やくしゃみ、又は会話のときに飛び散るしぶきを吸い込んで起こる飛まつ感染と、ウイルスがついている手指や物品（ドアノブ、手すり、スイッチ、机、椅子、おもちゃ、コップ等）を触ったり、なめたりすることで起こる接触感染があります。

どうやって防ぐの？

咳等などの呼吸器症状がある年長児やおとなは、可能な限り0歳児から1歳児との接触を避けることが乳幼児の発症予防に繋がります。接触感染の予防は、子どもたちが日常的に触れるおもちゃや手すりなどを**こまめにアルコール又は塩素系の消毒剤などで消毒すること**と、**流水と石鹸による手洗いが重要です**。また、咳などの症状がある場合にはマスクを着用するなどの咳エチケットが有効です。